

## サイエンスキャンプ「哲学カフェを体験してみよう」～中学生哲学対話～ 実施報告

テーマ：人の気持ち（心）がわかるって、どういうこと？

開催日：2018年9月29日

実施内容：

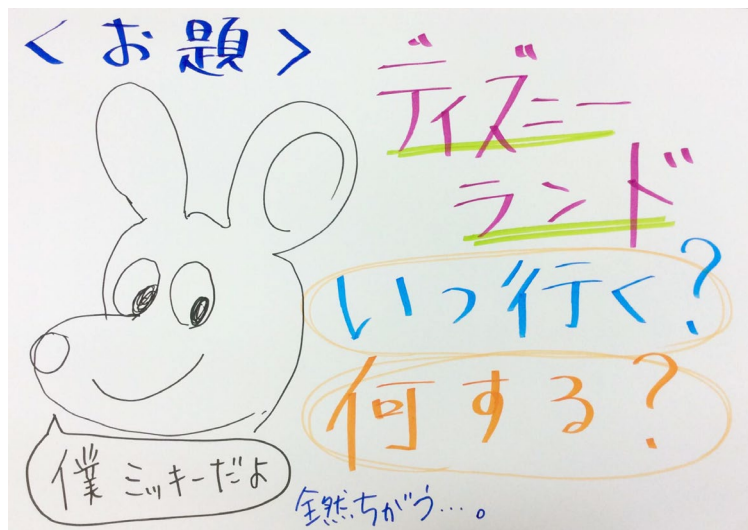
帝京大学宇都宮キャンパスが実施しているサイエンスキャンプの一環として、栃木県立矢板東高等学校附属中学校の生徒（1年生・約70人）を対象に、「哲学カフェを体験してみよう」を開催しました。約35人ずつの2チームに分かれ、午前・午後に分けて実施しました。今回は、同行した引率教員や保護者も対話に加わりました。

宇都宮キャンパスで「哲学」、「倫理学」を担当している総合基礎科目講師 江口建に加え、理工学部バイオサイエンス学科准教授 平澤孝枝と総合基礎科目講師 石川朝子がファシリテーターとして参加しました。

今回は、「人の気持ち（心）がわかるって、どういうこと？」、「空気を読むって、どういうこと？」というテーマで実施しました。キーワードは、「感情」「気持ち」「心」です。私たちは、普段、周りの人の気持ちを理解しているのでしょうか？思春期の若者たちは、友達や親の気持ちをどういふうに「わかって」いる、あるいは「わかったつもりになって」いるのでしょうか？親は、自分の気持ちを理解してくれているのでしょうか？「わかってもらえている」と感じるのは、どんなとき？どういふうに人は「わかった」と感じる？逆に「わからない」ときは、どんなときでしょうか？本当に「わかった」ときと「わかったつもりになっている」ときの違いとは何でしょうか？「わかる」と「わかったつもり」は本当に区別できる？あるいは、「わかる」と「わからない」の違いは？「わかる」ためには、何が必要？このようなテーマを巡って、中学生たちと一緒に実践しました。

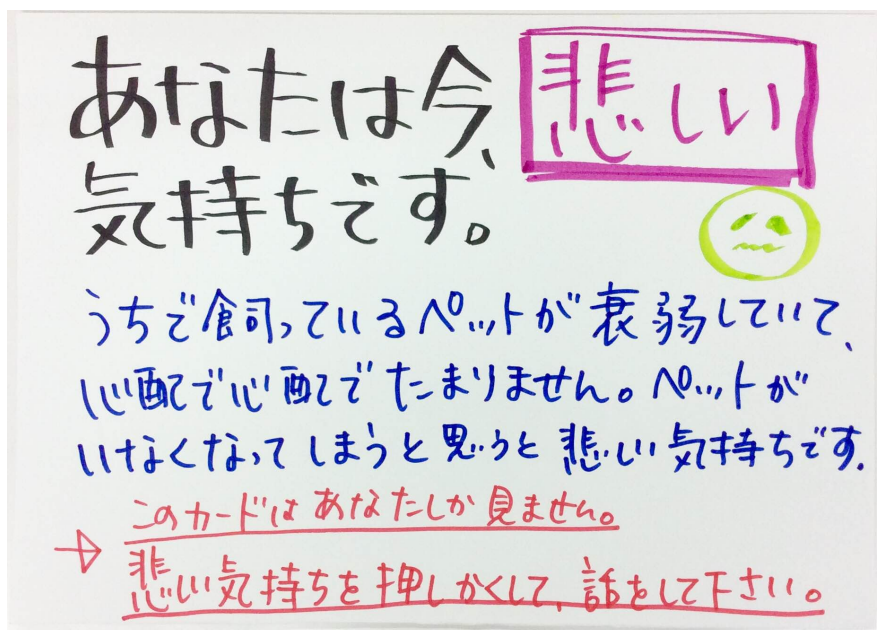
はじめに江口講師が「哲学カフェ」と「哲学対話」についてレクチャーを行ったあと、緊張をほぐすアイスブレイクも兼ねて、今回は、冒頭に〈小芝居〉を導入しました。

まず、生徒2人（生徒A、B）に登壇してもらい、お題を見せて、1分程度で会話の寸劇を演じてもらいました。1つ目のお題は、「ディズニーランドにいつ行く？何をやる？」です。

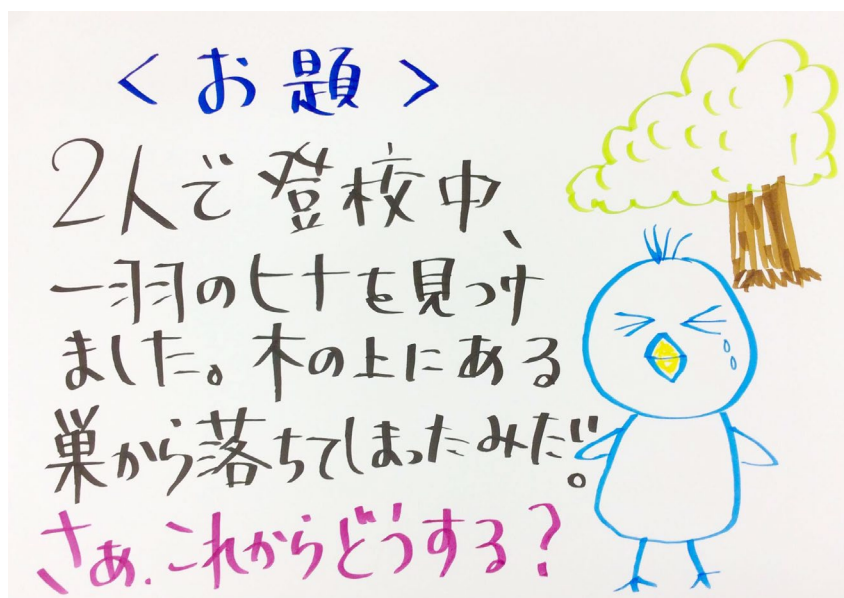


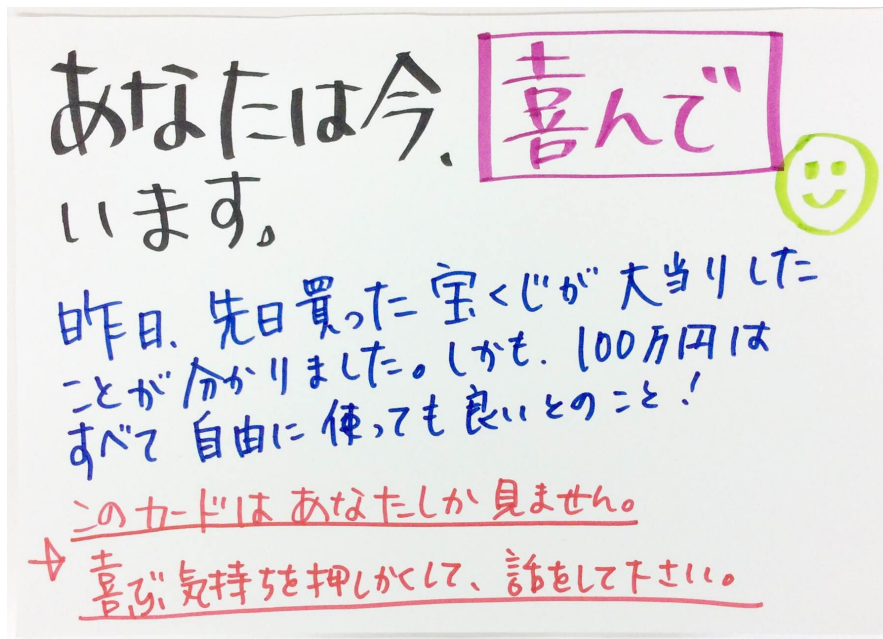
日常の何気ない会話です。ただし、A さんにだけ、もう 1 枚の紙を見せます。そこには、次のように書かれています。

「うちで飼っているペットが衰弱していて、あなたは今、ものすごく悲しんでいます。その気持ちを隠して、ものすごく楽しそうに会話してください」(= 悲しい気持ちを押し隠して、楽しい話をする)。



B さんはそのことを知りません。会話のあとに、A さんが実ははどんな気持ちで話していたかと尋ね、みんなにも考えてもらいました。次に、別の 2 人 (生徒 C、D) に登壇してもらい、2 つ目のお題として「登校する途中に、木の上にある鳥の巣から落ちたヒナ鳥を見つけた」という設定で会話をしてもらいました。ただし、C さんには、「先日買った宝くじが大当たりして、しかもその 100 万円を自由に使っていていいと言われ、喜んでいる」(= 喜びを押し隠して、悲しい話をする) という設定で会話をしてもらいます。





2つの寸劇を見た生徒たちは、片方の生徒が本当はどういう気持ちでいるのかを知ると、口々に驚きの声をあげました。さて、これらの芝居からどんなことが言えるでしょうか。これらの芝居は何を示唆しているでしょうか。それをみんなで確認したあと、2つのグループ（A、B）に分かれて対話開始です。それぞれのグループでキーワードをあげながら具体的に問いを出し合い、話し合いたいテーマを生徒たち自身が決めました。この報告書では、午前・午後それぞれの部から、Aグループの対話の様子について報告します。

#### 【ファシリテーター】

午前の部 Aグループ：平澤 孝枝、石川 朝子

Bグループ：江口 建

午後の部 Aグループ：石川 朝子

Bグループ：江口 建

#### <午前の部> Aグループ（ファシリテーター：平澤 孝枝、石川 朝子）

先ほどの寸劇を見て、各グループで対話が始まりました。Aグループの対話では、まずはファシリテーターが「人（相手）の気持ちが分かるってどういうこと？」という問いを投げかけて始まりました。人はしばしば会話の中で「あ～、それわかる！」と言いますが、いったい何をどう「わかって」いるのでしょうか？ファシリテーターがそのような疑問をぶつくと、ある生徒が、「共感している」「相手の気持ちを理解したときに口にすると思う」と発言しました。では、どういうときに理解したと思うのか、と問うと、「同じ気持ちだと感じたとき」「似たような経験をしたときに理解したとを感じる」という答えが返ってきました。また、「相手の言葉のトーンや話し方で理解できる」という意見も出ました。

しかし、例えば、運動会で綱引きをして勝ったとき、みんな「やった～！」と喜んで、共感できている

ということはすぐにわかりますが、冒頭の寸劇のように楽しい話題であるにもかかわらず、相手の気持ちは悲しいときもあります。相手が発した言葉が本当の正直な気持ちを表しているのでしょうか？ここから、逆に「わからない」と感じるのはどんなときだろうか、という疑問が湧いてきました。

ファシリテーターが生徒たちに「先生に怒られているとき、内心では『ウザいなあ』と思いながら、納得はしていないが『はい、分かりました。すみません』って言うことはありませんか？」と尋ねてみました。すると、生徒たちにも同じ経験があるようで次々に発言が出てきました。一方的に頭ごなしに言われたりすると「わかっていないなあ」と感じるようです。あるいは、反論しても、以前の話を持ち出される時は同じように感じるようです。

「相手の気持ちが自分とは違うな、と感じるのはどんなとき？」という疑問が投げかけられたとき、声のトーンやテンション、相づちの有無、顔の表情、仕草、体温、心音、口角、目力、使う言葉、動作、後ろ姿など、たくさんの意見が出てきました。生徒たちは、共感するときや同じ気持ちのときよりも、互いにわからないときのほうが心に感じる人が多いようです。

一体、人間はいつから相手の気持ちを察しようとするのでしょうか？動物も共感したり「わかった」と思うのでしょうか？そのような疑問を生徒たちに投げかけてみました。すると、幼稚園のときは、「楽しい」や「悲しい」くらいしか頭にないが、小学生ぐらいから言葉をそこに当てはめて表現するようになるのではないか、という発言がありました。また、犬は嗅覚で相手のことを知ろうとするし、相手の目を見ていれば相手のことがわかってくるのではないか、という意見もありました。このように話している今も、実は人の気持ちはわからないのではないか、ということに気づきはじめました。

誰かが、「先ほどの綱引きの場合も、表面上はみんな同じ経験をしているが、実は綱引きをしている間も勝ちたいと思っている子もいれば、別のことを考えている子もいるかもしれない。そうすると、同じ経験が同じ感情を出していることになるのだろうか」と発言しました。どうやら、「どう見ても共感できている、理解できている」という事柄について、同じ経験が同じ感情になっているとは言えない可能性が出てきました。「実は相手の気持ちなんてわからないのではないか」という発言が出たあと、別の生徒が「わからないからこそ想像して『こうなんだろう』と考えるのではないか」と発言しました。

わかろうとしているときも、わかろうとしていないときも、わかっていないことに変わりはないのです。いったい、「共感する」「わかる」ってなんだろう？と考えていると1人の生徒がうまい棒のたとえを持ち出しました。友達とうまい棒の話をしているとき、納豆味はおいしい。コーンポタージュ味もおいしい。うん、そうだね。そっちもおいしいけど、でもこっちもおいしいよね、わかるわかる――。

結局、一番好きな味は違っても、わかったことは、「うまい棒はおいしい」ということで、味がどうこうではない。**互いに共感しているのは、「うまい棒はおいしい」ということですが、肝心のそれは会話には出ない**ということです。生徒たちの頭がグルグル回転し始め、意見がどんどん出てきます。つまり、みんな「本当にわかること」「本当に共感できること」はいちいち口に出さない。本当にわかっているならば、「わかる」とは言わない。本当に同じ気持ちのときは口に出さなくてもよいのではないか。わからない

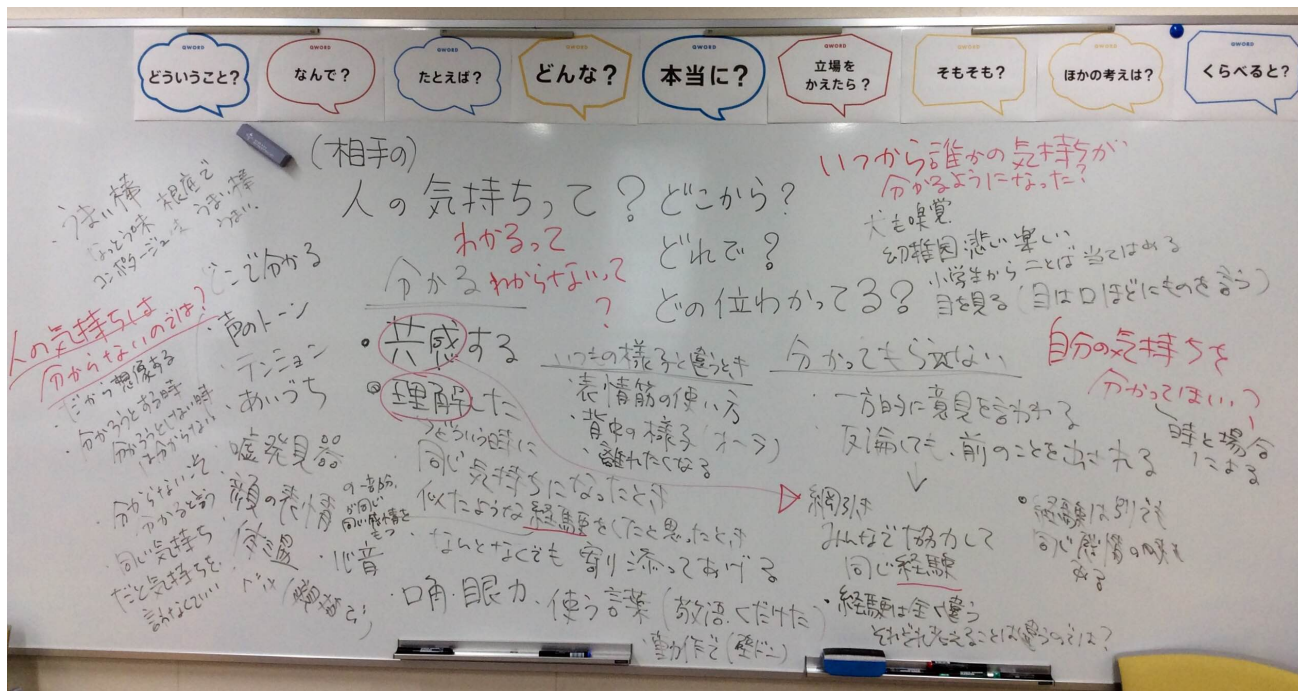
からこそ「わかるよ」と言ってみたり、表情や声のトーンから想像したり、相手の目つきや口元で判断を試みているのではないか。

ファシリテーターが「みんなは自分の気持ちをわかってほしいですか？」と聞くと、「時と場合による」という意見が出たところでタイムアップとなり、対話は終了しました。

両親、先生、友達、好きな人、嫌いな人、それぞれに対して自分のすべての想いを相手に知られるのは嫌でも、わかってほしいときもある。わかろうとしてもらいたいときもあれば、あえて知られたくないときもある。「たとえ同じ経験をしていなくとも似たような経験から、その人が今どのような気持ちでいるのかはある程度わかる」という発言が印象に残りました。共感、理解、経験、想像——これらの言葉が、相手の気持ちを考えるうえでとても重要なキーワードであることを対話を通して感じました。

私たちは同じ経験をしていなくとも、それまでの経験から相手の感情や気持ちを推測することができます。そして、その経験があればあるほど多くの感情を推測することができます。「成熟する」とは、たくさんの経験を積むだけではなく、そこから相手の気持ちを推測することができるようになることなのかもしれません。ご高齢の方々が一般に「涙もろい」（と言われる）のは、涙腺が弱くなったせいではなく、豊富な経験から相手の気持ちを推測することができ、感情移入をしやすからなのかもしれません。私たち人間は、ほかの動物と違って顔に毛がありません。だから顔の表情がよくわかります。毛がなくなったことで顔の表情を作る筋肉は、ほかの動物よりも発達しています。人間は、「表情」と複雑な「言語」で、他の動物よりもより相手の気持ちを推測し、共感することができるのではないのでしょうか。だからこそ、人の心というものはとても複雑なのかもしれません。

### 【午前の部】 Aグループのホワイトボード



## <午後の部> Aグループ（ファシリテーター：石川 朝子）

午後の部も、午前と同じように小芝居を用いてアイスブレイクをしたあと、2つのグループに分かれて哲学対話を行いました。Bグループには20人が参加しました。今回は生徒のほかに保護者と引率教員が輪の中に1名ずつ入り、一緒に対話を行いました。

まずはウォーミングアップとして、「気持ち」という単語から連想することを一人ずつ順に言ってもらいました。悲しい、楽しい、苦しいなどの言葉が出てきました。それらの単語をつなぎ合わせ、みんなで話し合いたい「問い」を作りました。出てきたのは「感情の限界って？」（5人）、「怒りって何？」（1人）、「好きって何？」（4人）、「気持ちと感情の違い」（1人）、「儂いの意味」（1人）などです。多数決の結果「**ポジティブ思考ってどこから？**」（7人）が本日のテーマとなりました。

このお題を出した生徒に、どのような思いからこの問いについて話したいと思ったのかを尋ねてみました。生徒は「悲しい気持ちを持つことは特別なことで、ポジティブに考えることができるのは自信の表れだと思う。自信がない人は、ポジティブになることが難しいのではないかと日頃から考えている」と述べてくれました。これを受けて、全員に対し、ではそもそも「ポジティブ思考」「ポジティブ」とはどのようなことでしょうか、と問いを投げかけてみました。すると「悪いことがあっても良い方向に進むこと」「プラスの感情」「嬉しい気持ち」「マイナスでないこと、ネガティブでないこと」といった答えが返ってきました。

では、「ポジティブ」の反対として扱われている「ネガティブ」とは、いったいどんなときに抱く感情でしょうか、と問いかけました。生徒たちは「悲しいときや悔しいとき、自己嫌悪に陥ったとき」「理想とは逆のことが起こったとき」「試合に負けたとき」などに「ネガティブ」な感情を抱くようです。

続いて、「自分で自分のことを嫌いになったことがあるか」「そういうときにどんな行動をとるか」について尋ねてみました。すると、「後悔することはあるが、それが運命だから」と発言した生徒がいました。「運命」とはどういう意味かより深く尋ねてみたい気もしましたが、今回はそのあとに続いた次のようなフレーズについて全員で考えてみることにしました。その生徒が口にしたのは、「後悔することはあるが、それが運命だから逃げない」というフレーズです。「逃げる」とはどのようなことでしょうか？生徒たちからは「感情が高まって外側から自分を見ている感じ」「逃げることは大切なこと」「場合に応じて『逃げる』の意味合いは変わる」「再度挑戦するという意味が含まれている」などの意見があがりました。保護者からは「自分を守るため」「壊れてしまわないように逃げる」といった意見が述べられました。

今回唯一の教員である1人の参加者は、逃げることに對して、学生時代の教師から「逃げてはいけない」と言われ続けてきており、「逃げる」という言葉に対する嫌悪感・イライラを感じているようでした。言葉のニュアンス自体が嫌だ、とのことでしたが、言語化が難しいと言います。

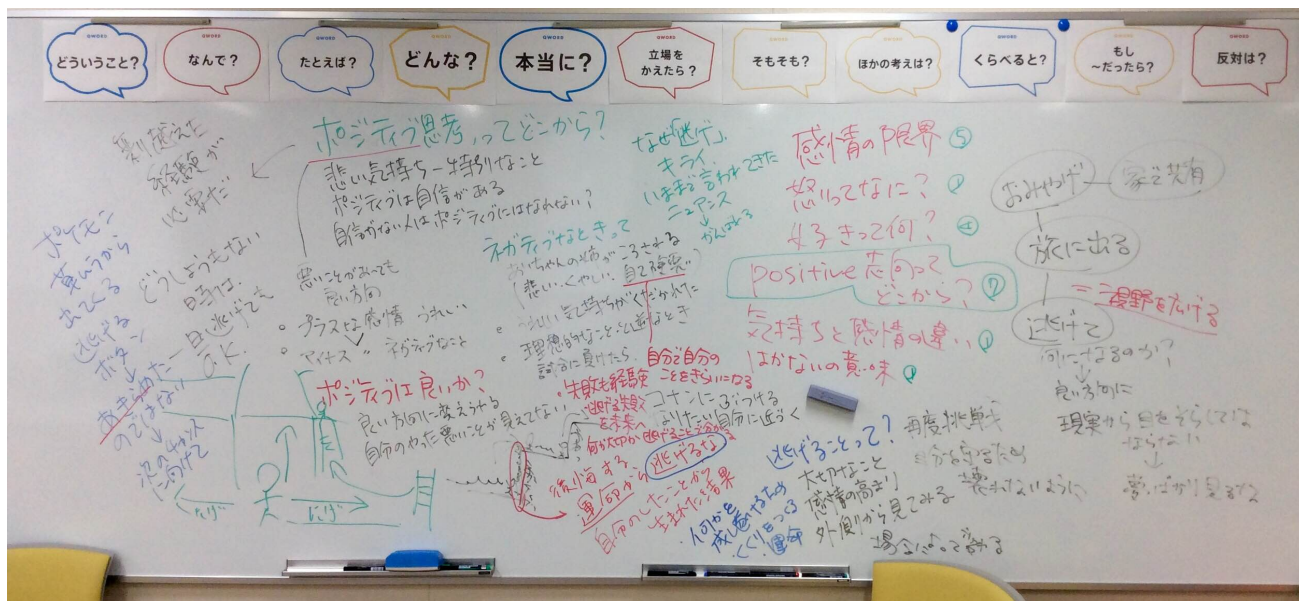
ここで「逃げるのが何になるのか？」という問いが新たに出てきました。「良い方向に考えようとして現実から目を逸らしてはいけないし、夢ばかり見てはいけないのではないか」という現実的な意見です。一方で、ある生徒は「逃げる」というのは「旅に出ることと一緒にではないか」と話し始めました。

逃げるということは一度旅に出ることであって、そこで誰かに渡すお土産を持って帰って誰かと共有することが最終的にできれば、それは逃げたことにはならないし、逃げることにも意味がある、という意見です。失敗も経験であり、逃げる意味を見出すことができれば逃げて大丈夫だ、と別の生徒も発言しました。また、逃げることで自分が大切に思っているものが何であるかがわかることもあるといいます。ある生徒はこの状態をポケモンのゲームにたとえて次のように話してくれました。草むらからポケモンが出てくることがある。その際、「逃げる」というボタンが画面上に用意されている。僕が「逃げる」のボタンを押すのは決して諦めたわけではなく、次のチャンスに向けて一旦逃げているだけだ。この「逃げ」は戦略的なものだ。そう話してくれました。

ここまでの話を受けて、一旦、最初の問いに戻ってみることにしました。「逃げる」ことは悪いことではないようです。一見「ネガティブ」という言葉で代表される「逃げる」ことが、話し合っていくうちに「お土産」を獲得できる良い体験へと置き換えられています。では、「ポジティブ」であることはよいことなのだろうか？そう問いかけると、「良い方向に変えていく力を持っているので、ポジティブはよい」という意見や、「自分のやった悪いことが見えていない可能性がある」と、リフレクション（省察）が足りない状況にポジティブ思考の落とし穴があるのではないかと考える意見もあがりました。

ネガティブな経験もポジティブな意味を包含していることや、ポジティブ思考が単に素晴らしいということではなく、省察する機会を失う可能性もあることが対話から見えてきました。彼らの対話の様子を見てみると、これまでにどこかで読んだものや、すでに話されている一般的な言説を内包しており、はたして自分の経験と結びついているのか、本当に自分の言葉で話すことができているのか、と不安に思う瞬間がありました。簡単に言えば、非常に説明的で、考えを揺さぶるような意見が出にくかったと感じました。ここには、ファシリテーターの進行の仕方にも一因があると思われる。「そういう経験がありますか？」や「どんなときにそう思いましたか？」など、もっと合いの手を入れるべきだったかもしれません。数日たった今、この文章を書きながら“あなたのこの「反省」もポジティブな意味を含んでいるんだよ”と彼らから慰められている気がして不思議な気がします。

### 【午後の部】 A グループのホワイトボード



以上が、午前・午後のAグループの対話の様子です。

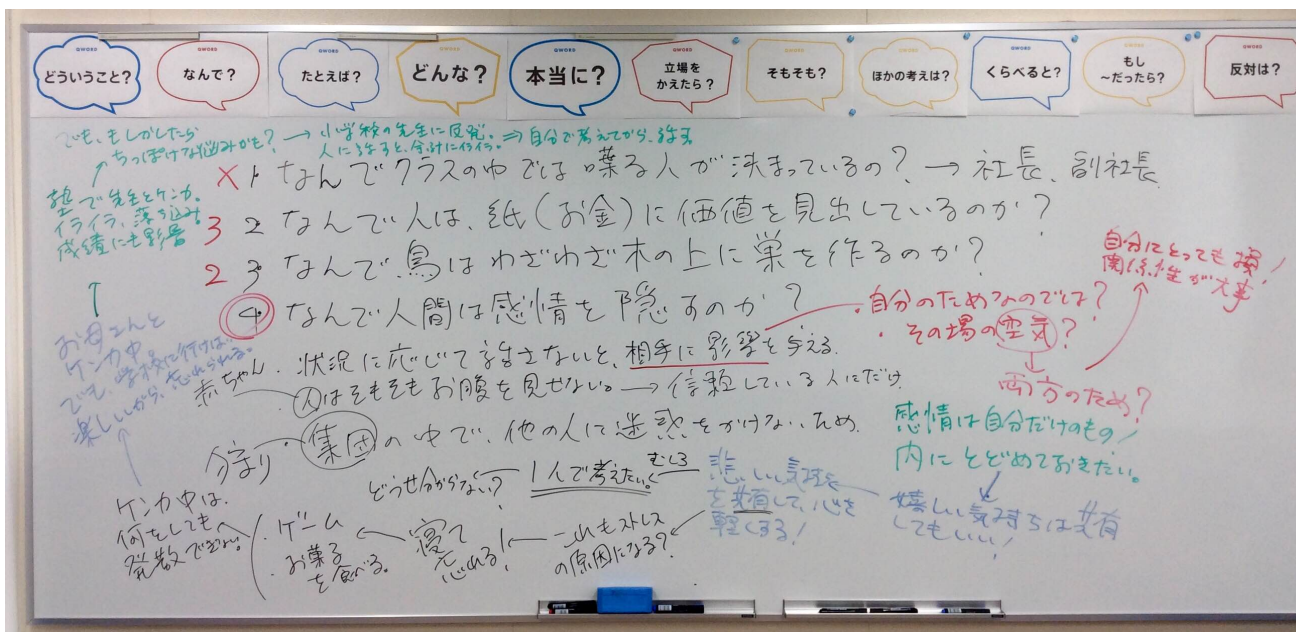
哲学対話には、定番の「道徳」の授業のような「他人の気持ちはわかるものだ」という前提に立ったうえで「他人の気持ちを押し量りましょう」という展開はありません。むしろ、ほかの人の話を聴くことで自分の中の日常的な確信・前提が揺らいだり、世間で正しいと言われていることを自問したり、それまでとは違った観点が見えてきたりすることを哲学対話では重視します。

今回、学校の先生や保護者の方が輪の中に入ってくくださったこともとても良かったです。

午後の部のBグループでは、終了間際に生徒から本音が出ました。ある生徒が、「これは質問ですが、どうして大人はいつも子どもに『言い訳をするな』『口答えをするな』って言うんですか?」と質問しました。輪に入っていた保護者の方が、2人とも目を白黒させて唸っていたのが印象的でした。このテーマで話し合ってみたかった、と後で思いました。その質問をした生徒は、当初、優等生的な生徒だという印象を受けていたのですが、心の中ではいろいろな想いが渦巻いていたのではないのでしょうか。きっと、最後にそれを思い切って言葉にしたに違いありません。そして、今この場でならばそれを口にしてもよい、と思えたのではないのでしょうか。

モヤモヤを安易に解消するのではなく、もっとモヤモヤしてもらうために今後も多くの人に哲学カフェに参加してもらえたら嬉しく思います。

### 【午前の部】 Bグループのホワイトボード





【午後の部】 Bグループのホワイトボード

「わかる」 気持ち  
 知らなかつたこと  
 や理解していきながら  
 こと。自分の行動  
 あること。  
 自分なりに答えを  
 書き出す。  
 考える  
 理解する  
 覚える  
 学ぶ  
 自分のものに  
 なる

嬉しい. 行動  
 悲しい. からだ  
 表情. 心  
 どんぶり. くる  
 怒り. 不安  
 緊張. イライラ  
 寂しい. しい  
 悔しい. 悔しい  
 切ない. 悔しい

重なる  
 ことば  
 感情  
 LM  
 いろいろあること  
 が好き  
 DS  
 いろいろの  
 好き

わかってもうえているか? どうか  
 わかたない.

わかっている  
 ・思ったことを言ってしまうとき  
 ・反応が予想と違うとき  
 わかってもうえている  
 本音で言うときと否定される.  
 頭ごなしに否定される.  
 言われたことと違うことを言われる  
 がかわれる.  
 誤解を招いた.  
 相手にしてやうたい.

三矢問題  
 オウム真理教  
 ルールの  
 基準  
 「わかる」と  
 「わかたつても」  
 区別がつかない?  
 30人 1人  
 数の内題の  
 価値観の押し付け

どういうこと?    なんて?    たとえば?    どんな?    本当に?    立場をかえたら?    そもそも?    ほかの考えは?    くらべると?    もし~だったら?    反対は?